



『鹿嶋力』 見つけた

市長エッセー No.85

3月に入り、少しずつ寒さも和らいできました。梅の香りがただよい、春の訪れを感じる今日この頃。この時期と
言えば、本市では、なんととっても祭頭祭です。

祭頭祭は、五穀豊穡や天下泰平を願うお祭りで、春祭りに
相応しい色鮮やかな衣装をまとい、かし棒を手に勇ましく
囃す様子は、3月に策定を目指している第四次鹿嶋市総合
計画で掲げる、多様性が尊重され、持続可能な市の将来
像「Colorful Stage KASHIMA」を象徴するような光景だ
と思っています。

祭頭祭は昨年から神事を9日、祭頭囃しを直後の土曜日
に分けて開催されることとなりました。鹿島神宮をはじめ
とする関係者の皆さんが、本市の伝統行事を子どもから大
人まで、多くの人に体験してもらえるよう配慮していただ

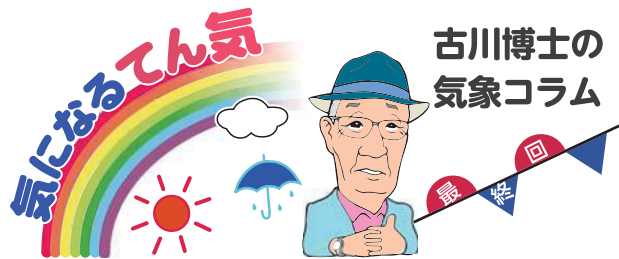


▲筑波銀行の寄贈サービス付き CSR 私募債を通じて、中山設備工業株式会社から、鹿嶋市社会福祉協議会に福祉体験用ゴーグルが、鹿嶋勤労文化会館に演台がそれぞれ寄贈されました。

いた結果です。

今年の当番字である泉川郷、居合郷の皆さんは、この日のため、1年をかけて入念な準備を行ってきました。当日は、勇壮な祭頭囃しが披露されるのを期待するとともに、しっかりとした感染対策のもとで怪我のないよう頑張っていたきたいと思います。市としても、古くから伝わる貴重な文化遺産を後世へ引き継ぐため、引き続き支援してまいります。

そして、このようなイベントに気兼ねなく多くの方が集まり、皆さんで観ていただける日が1日でも早く来るよう、これまで同様、感染拡大対策に取り組んでまいります。市民の皆さんもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



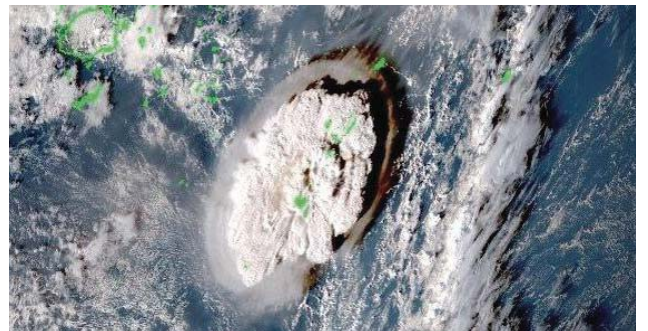
古川博士の 気象コラム

古川武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

日本時間1月15日13時頃、日本のはるか南8,000kmも離れた南太平洋トンガ諸島で大規模な海底火山の噴火が起こり、その日の夜、津波が日本やアメリカにも押し寄せました。深夜にスマートフォンのアラームが鳴り、津波警報に驚いた方も多いのではないのでしょうか。

この津波が特異だったのは、①地震が観測されなかったこと②トンガ諸島～日本の間にある国で津波が観測されなかったこと③想定より早く日本に到達したことです。本来、津波の速度は水深だけで決まるため約10時間で日本に到達する予測でしたが、大洗や鹿島港でも3時間ほど早く20時過ぎに到達しました。

この津波は「気象津波」と説明されています。今回は直径300kmにも及ぶ大規模な火山噴火が、30km上空の成層圏に爆発的に吹き上がる際に励起された急激な気圧変化が海面を変動させ、津波になったようです。



▲噴火直後の「ひまわり衛星」可視画像。

気圧変動(振動)は大気中を音速(時速約1,200km)で伝わりますが、今回は少し遅く、水戸地方気象台で20時過ぎから1～2hPaの気圧変動が現れました。

ところで、大規模な噴火では火山灰が成層圏に達して長期間にわたって地球を巡るため、太陽光を遮って気温の低下を招き、異常気象につながる可能性があります。実際、1991年フィリピン・ピナツボ火山の大噴火に伴って、北半球の平均気温が0.5～0.6℃下がり、その影響は3年間におよび、日本でも冷夏に見舞われました。1993年は梅雨前線がいつまで経っても北上せず、「梅雨明けなし」とされました。しかし、今回の噴火は南半球で、北半球への影響はほとんどないと言われています。

雲は天気顔です。皆さん、空を見上げて、雲行きを眺め、風を感じて天気に親しんでください。

